

アカゲラ通信



クリスマスとヤドリギそして鳥のつながり

冬になり、木々の葉が落ちると目立つのが「ヤドリギ」。今月はヤドリギの特集です。

◎北海道は「アカミヤドリギ」

ヤドリギはビャクダン科の常緑樹。ハルニレなど他の樹木の枝に根を張って養分をもらいつつ自らも光合成をする「半寄生植物」です。

雌雄異株、雌の株には秋に実がなり、本州以南のものは実が黄色ですが、北海道で見られるのはほとんどが実が赤い変種「アカミヤドリギ」です。(もし黄色い実のヤドリギを見つけらせひご一報を)。

◎鳥のおかげ

ヤドリギの実はヒレンジャクやヒヨドリなど鳥が好んで食べます。

実は粘りのある液体で満たされており、中にある固い種子は消化されずに鳥が飛んだ先で糞として排出され、粘つくことで樹木について発芽し育ちます。鳥が飲み込むことで柔らかい部分がなくなることで種子が発芽しやすくなるメリットもあります。種子を広くばらまいてくれる鳥は、ヤドリギにとっては繁栄にかかる重要な存在です。

◎クリスマスにヤドリギを

ヤドリギは英語で mistletoe "ミスト(ト)ルトウ"。英米ではクリスマスにヤドリギを飾りますが「クリスマスにヤドリギの下で一緒にいる人にはキスをしてもよい」とされており、有名なマライア・キャリーの「恋人たちのクリスマス」All I Want For Christmas Is You をはじめ、多くのクリスマスソングの歌詞に出てきます。

ところで、西洋のヤドリギは白い実になりますが、緑の葉に赤い実の「アカミヤドリギ」の方がクリスマスらしくていいと思いませんか？

◎ヤドリギはどこから手に入れる？

クリスマスにヤドリギを飾るといっても、あんな高いところにあるヤドリギをどうやって取る… 答えは簡単。木を倒します。燃料を薪に頼っていた時代、ヤドリギも比較的簡単に手に入ったことでしょう。木を切らない旭山では自然に落ちたヤドリギ丸ごと手に入れるのは難しく、過去に何度もしか見たことがありません。

ヤドリギの実を食べに来たヒレンジャク→



◎ヤドリギとカラスの巣の違い

冬に高木が落葉すると、カラスの巣も目立つようになり、遠目では一見ヤドリギと見間違うこともあります。しかし、カラスの巣は必ず幹と枝が分岐している部分にあるのに対し、ヤドリギは枝の先の方にもあるので区別は容易です。近くで見るとカラスの巣は枯れ枝、ヤドリギは緑で分かります。

なお、エゾリスの巣も似たような形ですが、カラスの巣は上が平らなのに対し、エゾリスの巣はラグビーボールをタテに置いたような形に見えます。

この冬はヤドリギにぜひ注目を！



2021年元旦初日の出について

旭山記念公園では、2021（令和3）年1月1日元日も朝5時駐車場開門となります。

当日は警備員も配置しておりますので、道路及び駐車場内では警備員の指示に従ってください。

例年6時40分には満車となりますので、近隣のご迷惑になるため路上駐車は決してしないようお願いします。

さて、ここ5年ほど元旦は天気に恵まれず、初日の出を拝めていません。

2021年、新しい年には初日の出が見られるよう願っております。

(右写真) 2015年元旦初日の出。翌年から5年、初日の出が拝めていません。



旭山野鳥メモ㉑ フクロウ

フクロウ Ural Owl *Strix uralensis* フクロウ目フクロウ科

留鳥。以前ここでもお伝えしたように、10月に中島公園で保護されたフクロウが旭山記念公園に運ばれ、放鳥されて山に飛んで行った。

それから2ヶ月の間、旭山でも何度かフクロウが観察されているが、放鳥された個体か別個体かは確認が取れていない。

フクロウは元々旭山でもたまに観察されており、近隣に住む方が夜に時々声を聞くこともあるという。冬は日没後に声を聞く機会が増える。

旭山に夜景を見に来た人が門の石の上にいるのを見た、駐車場で夜に白っぽい大きな鳥が飛んでいた、カラスに追いかけられているのを見た、などという情報があったり、夏に都市環境林の池にセンサーをかけたところ、水浴びをしに来る姿が写っていたりと。

ただ、旭山にはフクロウがすむのにいい洞(うろ)がある木がなく、藻岩山から来ていると思われる。

フクロウは知恵のシンボルだったり、『ハリー・ポッター』に出たりと親しまれている鳥だが、昔は洞がある木が周りにあり出会う機会も多かったのだろう。人との距離は近いが、洞がある大きな木が必要不可欠で、木が代々守られている神社やお寺の周りに多いのはそういうこと。

フクロウは鳥にしては顔が平らで目が前向きについていて、人の顔に似ているのも親近感を覚えるところ。

フクロウは人をひきつけてやまない。旭山でももっと見られるといいのだが。



12月の野鳥トピックス

野鳥についての詳しい情報はホームページの野鳥情報をご覧いただか、森の家までおたずねください。

★ハシブトガラ=11月下旬に「初鳴き」、早くも囀りを始めました。

★ヒレンジャク=12月に入り50羽以上の群れが見られています。

★イスカ=引き続き声を聞いていますが観察機会は少ないです。

★ベニヒワ=ときどき群れで上空を飛んでいますが観察機会は少ないです。

★マヒワ=11月下旬から20羽以上の群れがよく見られています。

★ウソ=声は聞かれていますが近くで観察する機会はまだ少ないです。

★ツグミ=例年より少ないです。亜種ハチジョウツグミも観察されました。

★クマゲラ(右写真:雄)=11月も園内でしばしば観察されました。

★ヤマゲラ=今年はこの時期もよく観察されています。★キバシリ=西側エリアでしばしば見られています。

★カケス(亜種ミヤマカケス)=つり橋周辺と学びの森以外では見る機会が以前より少なくなってきました。

★シマエナガ=今は森の家周辺で日に何度も見られ、園内他の場所でも観察情報が多いです。



2020年旭山昆虫リスト新規追加は24種

旭山では昆虫のリストを作成していることは以前にも何度か話しましたが、2020年度は過去の写真を同定したものも含めて新たに24種がリストに追加され、300を超えて計315種まで増えました。

イチモンジセセリは本州以南ではおなじみの蝶ですが、北海道では繁殖せず南から渡って来るものだけが見られます。旭山でも今年の秋に初めて観察され、リスト新規追加となりました。

今年新たにリストに加わった4種の写真です。来年は特にハエ、アブ、ガに力を入れたいと思います。

オオキノコムシ↓

ヘリグロベニカミキリ↓

イチモンジセセリ↓

エゾベニシタバ↓



公式サイト

「アカゲラ通信」 第86号 2020(令和2)年12月6日発行

発行:(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所:〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先:電話011-200-0311(土・日・祝日10時~16時) FAX011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/>